

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成28年度高岡南高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	(1) 3年間を通して挑戦する気持と諦めさせない心を育成するとともに、全校協力態勢のもと粘り強く最後まで指導し、生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格を支援する。 (2) 一人一人の生徒を理解して実態を的確に把握した上での学習習慣の育成や進路指導が重要という意味で、面接指導の充実を図る。	
現 状	生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果である。安易な方向に流れて学習が継続できなかったり、目標を諦めるのが早く最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくない。	
達成目標	(1) 生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格率	(2) 生徒一人あたりの面接実施回数(担任、副担任、授業担当者)
	卒業生数の65%以上	1・2年生:6回以上、3年生:12回以上
方 策	(1) 学習時間のスタンダードは、<平日:1年・2時間、2年・3時間、3年・4時間><休日:1年・4時間、2年・6時間、3年8時間>とし、全体に周知を図りながら学習時間を位置づけた生活習慣を身につけさせる。なお、3年生は体育大会後は平日5時間、休日10時間を標準とする。 (2) 1年生の初期指導を重視する。また、面接週間以外に校外模試の自己採点時での面接を必須とするなど、面接指導を通して生徒の気持ちを前向きにさせる。 (3) 高い志望校の設定を指導しながらそれを貫かせるように支援する。また、そのことを通して挑戦する気持と最後まで諦めない心の育成を図る。 (4) 校内外テストの成績状況や結果を分析し、今後の指針となるような資料を作成するとともに校内全体で各学年の情報を共有できるよう努める。 (5) 3年生の進路支援を全校協力態勢を確認しながら充実を図る。特に、センター試験後の2次試験対策を強化し、生徒の第一志望校合格を支援する。	
達成度	(1) については、目標に及ばない約50%であった。 (2) については、各学年とも目標以上に実施した。	
具体的な取組状況	(1) 毎朝、前日の学習時間を書かせることで自分の生活を振り返らせている。9月中旬段階で、1年・2年とも(平2・休3)ぐらい、3年(平4・休7)である。3年生は11月段階で、平4.5・休8.3となっている。 (2) 1年生については、面接を中心に初期指導(“高南の生徒”にする)を実施した。2学期後半になって、その効果が現れ始めている。 (3) 1学期末から難関大学対策講座を約15回実施。2学期末段階では約30名の志望者であったが、センター試験が思ったように点数がとれなかったため、実際に出願した生徒は10名であった。この10名を全校で最後まで支援する体制をとっている。 (4) 各学年とも模試の分析を行い、全学年の状況・情報を共有する仕組みになっている。 (5) 3年生の成績状況や志望状況は、全校で共有する仕組みになっている。学年の枠を超えて、全校体制で3年生を支援している。	
上記方策の(1)～(5)に対応して記述		
評価	B 目標を達成できない項目もあったが、ある程度満足できる結果であった。	
学校評議員の意見	授業や面接以外にもいろいろ機会を設けて学習意欲、高い志の高揚に努めてほしい。1年次からの指導は教職員に相当負担をかけると思うが、その効果を判定する尺度も示したらどうか。	
次年度に向けての課題	(1) 面接による生徒支援は次年度も実施していきたい。 (2) 第一志望校の合格率が判明した時点で原因を探り、次年度の対策を考えたい。 (3) 難関大学志望者の少なくとも半数が出願するようにしなければならない。今年度の育成計画を検証し、次年度の対策に生かしたい。	

()評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状よりわるくなった

重点項目	学校生活	
重点課題	自主自律の精神に満ちた品格のある生徒集団の形成	
現 状	礼儀、時間厳守、身だしなみなどの点で、南高校生とふさわしい品格が身につけていない生徒がいる。多くの生徒が主体的に関われる活動が少なく、やや停滞している活動が一部見受けられる。	
達成目標	(1) 礼儀、時間の厳守、身だしなみを中心に、南高校生としてふさわしい品格が身につけていると感じている生徒の割合の増加 (2) 学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合の増加	
方 策	(1) 日頃の登校指導や声掛けの中で、あいさつ・身だしなみ、時間厳守等の意識の向上を図る。 (2) 部会の定例化や学年との連携を密にすることで、現状の学校生活の問題点や情報を共有しながら、凡事徹底がはかれるように互いを尊重し協力して指導する。 (3) 服装頭髪指導や自転車鍵かけ点検などを定期的な全体指導のみならず、日頃から継続して学校全体で指導する。 (4) 生徒が主体的に校訓の理念を理解し、それにふさわしい行動ができるよう、執行部や校紀委員会を中心に学校生活のさらなる充実につながる活動を行う。 (5) 各行事の目的、テーマの明確化にし、できるだけ多くの生徒が企画、運営に関われるように工夫する。 (6) 外部講師や保護者から着こなしやマナーについて指導していただく機会を設ける。(マナーセンスアップ教室、さわやか運動など)	
達成度	校紀委員会実施アンケート結果より (5月→11月) 品格：しっかり身につけている 15%→18%、身につけている 73%→70% 主体性：しっかり取り組んでいる 17%→19%、取り組んでいる 67%→66%	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早朝校内巡視、校門指導を毎日行い、あいさつ、マナー、身だしなみについて生徒の意識の向上を図った。 ・ 部会を定期的に持ち、学年との連絡を密にし、指導方針の共有を図った。 ・ 各集会において、身だしなみ、マナーなどについて自覚して行動するように指導した。 ・ 全校生徒対象に外部講師による「乗車マナー講座」を実施し、乗車マナーについて意識の向上を図った。 ・ 1年生対象として外部講師による「着こなし教室」を行った。 ・ 通学マナーの向上のため、交通安全指導を全職員で行った。 ・ 県主催の自転車カギかけコンテストに参加した。 ・ あいさつ、マナーを呼びかけるのさわやか運動を執行部、各種委員会、各部活動が中心になって、保護者、職員とともに実施した。 ・ 生徒校紀委員会を定期的に開催して、生徒会生活目標を設定し、南高校がより良くしていくためには何が大切かを話し合う機会を多く持った。 ・ 地元行事、施設訪問などのボランティア活動に生徒が参加する機会を多く設けた。 ・ HR、学校説明会、総合的な学習の中で、主体性が発揮できる場面を多く提供した。 ・ 体育大会、南高祭において校紀委員が中心となって校内警備、環境整備を行った。 	
評 価	B	生徒の自己評価は高い数値を維持している。
学校関係者の意見	達成目標が数値化されていないので工夫してほしい。多くの生徒がJR利用であり、乗車マナーは南高校のイメージに影響するので意識を高めてほしい。	
次年度へ向けての課題	「言われてから行動する」のではなく、「自らよくしたいから行動する」自律した集団作りをすすめるためにも、指導方針のベクトルをそろえて「チーム南」として学校全体で指導にあたれるよう、生徒指導部を中心に指導体制を整える必要がある。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校の活性化												
重点課題	(1) 教員の授業力等の資質向上 (2) 将来の大きな志を持ち、意欲的に学び活動する生徒の育成 (3) 地域との協働・連携による開かれた学校づくり												
現 状	平成27年度の実績 (1) 互見授業(1回)、授業活性化委員会(3回)、学校課題小委員会(3回) (2) キャリアデザイン・プロジェクトSの実施 (3) 土曜授業での公開授業(2回)												
達成目標	(1) 教材や指導法に関して工夫が感じられる授業・満足度の割合(80%以上) (2) キャリアデザイン・プロジェクトSの実践により自己のあり方や生き方が明確になることで今の学びに意義を見だし、学習意欲がさらに向上した生徒の割合(90%以上) (3) 本校の教育活動への理解を深める情報提供がされていると感じている保護者等の割合(80%以上)												
方 策	(1) 質の高い授業づくりを目指し、研修や自己研鑽の機会の充実を図る。また、校内授業研究及び公開研究授業等を通して授業改善を推進する。 (2) キャリアデザイン・プロジェクトSに対する生徒の満足度及び日常の学習活動や社会規範意識をふまえ、生徒自身が自己の成長及び成果を継続的に振り返り自己評価する。 (3) 土曜授業やホームページを利用して本校の広報活動の内容をさらに充実させる。また、学校外の人的資源をキャリア教育、講演会等に活用する。												
達成度	①アンケートは3月に実施予定である。 ②キャリアデザイン・プロジェクトSに対する生徒の満足度及び成果アンケート <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>非常に参 考になった</td> <td>参考に なった</td> <td>少しは参 考になった</td> <td>あまり参考 にならなかった</td> <td>全く参考 にならな かった</td> <td>わからない</td> </tr> <tr> <td>26%</td> <td>44%</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>1%</td> <td>4%</td> </tr> </table> ③キャリア教育で外部の人材・講演会を15回実施した(講師数のべ94名)。ホームページの通信欄を活用して学校の様子を報告し、投稿数も訪問者数も増加した。投稿数4月～2月(昨年103⇒今年173)訪問者数4月～2月(昨年30, 713人⇒今年43, 469人)保護者アンケートは2月に実施予定である。	非常に参 考になった	参考に なった	少しは参 考になった	あまり参考 にならなかった	全く参考 にならな かった	わからない	26%	44%	20%	5%	1%	4%
非常に参 考になった	参考に なった	少しは参 考になった	あまり参考 にならなかった	全く参考 にならな かった	わからない								
26%	44%	20%	5%	1%	4%								
具体的な 取組状況	①互見授業を1・2学期に実施した。授業活性化研究会を4回実施した。思考力(表現力、判断力)を問う問題を作成し、3学期に1、2学年で実施し検討した(授業力・発問力・問題作成力の向上)。校外で公開授業等があれば積極的に参加した。②1学年は、1学期にキャリアデザインゼミナールを2回実施した。2学期に大学探検Iとして金沢大学を訪問し、大学の概要を知るとともに、先輩から高校生活や学習活動等について助言を得た。2学期には企業訪問を実施した。2学年は、1学期に金沢大学、新潟大学等より講師を招き、大学連携講座を実施した。2学期に志望ごとに分かれて「探究的な学習」を行い、11月にはその成果のまとめを発表した。3学年は、1学期にキャリアプランニングを実施し、自分の将来の進路に関連する「探究的な学習」を行い、班ごとの意見交換、レポート作成、ポスター発表を行った。③土曜授業を8回実施し、各行事の案内や実施状況をホームページに掲載した。												
評 価	B 生徒の満足度は概ね高まっている。												
学校関係 者の意見	キャリア教育では、今後社会で何が求められるか、どのような人材が必要とされるかを考えて取り組んでほしい。大学の特色ある取り組みの紹介や、真面目さだけでなくユーモアの感覚を磨く機会を設けてはどうか。												
次年度へ 向けての 課 題	教員の授業力の向上を目指すために、定期考査に思考力を問う問題を取り入れる。 キャリアデザイン・プロジェクトSに対する生徒の満足度を高めるために、取り組み内容の充実をはかる。												

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	生徒の主体的な活動	
重点課題	生徒が委員会活動の中で、現状を踏まえ、必要とされる仕事や行事などを企画し運営することで、高校生活の充実を図る。	
現 状	(1) 現状に慣れ、清掃美化意識がなかなか高まらず、環境改善に結びつかない。 (2) 広報紙の発行や図書館行事は行っているものの、委員以外の生徒の関心が高まらず、参加者の拡大につながらない。	
達成目標	(1) 保健環境委員による美化週間を、学期に1回は設ける。 (2) 図書委員による広報活動を、月1回以上は行う。	
方 策	(1) 委員会や打ち合わせを丁寧に行い、委員の自覚を促す。 (2) 美化週間について、生徒会執行部に企画し、ホームルーム役員と協力し、活動意識を高める。 (3) 図書委員が、毎月広報プリントを作成し、全生徒に配付する。図書館行事の案内ポスターを作成・掲示し、行事への参加を呼びかける。	
達成度	(1) 美化週間を1、2学期に1回ずつ設定した。 (2) 広報プリント「NO BOOKS NO LIFE」を毎月発行した。ブックフェアを3回（夏休み前、学校祭、冬休み前）、図書教養講座を1回した。ビブリオバトルのポスターを作成し掲示した。	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・美化週間では、保健環境委員がS T時にクラスで連絡し、積極的な取り組みを促した。 ・学校祭ブックフェアや図書教養講座では、委員以外に多くの生徒参加を集めるために、図書委員がクラスでPR活動を行った。 	
評 価	B	目標は達成できたが、生徒の主体性には物足りない部分がある。
学校関係者の意見	活動がマンネリ化しないよう工夫してほしい。美化週間等はキャンペーンを打ち上げるのはどうか。行事等の企画・運営は友達の輪を広げ、卒業後にも役立つので、参加を促す努力を続けてほしい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃の取り組み、達成レベルを上げることが必要である。 ・図書関連行事は、時間の余裕のある時期に開催するとともに、関心の高い内容を企画することが効果的である。 ・各種活動や企画について、委員以外のより積極的な参加を促すために、働きかけの工夫が必要である。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)